

復活節第5主日  
ヨハネ 14・1-12

2014.5.18 9:30 ミサ  
柴田 潔(イエズス会司祭)

### 導入

福音ではイエスさまが「私はあなたの部屋を用意する」と言われます。この言葉の意味を深められることを願ってミサを始めましょう。

### 説教

「わたしの父の家には“住むところ”がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意する」とイエスは言われます。修道会の生活は2～3年ごとに住む場所が変わって今は8回目の場所（上石神井。山内神学生が3月まで+2年間住んでいた場所）に住んでいます。今日は、住む場所とわたしの召出しと結びつけてお話しします。

皆さんご存じのように私は、12年サラリーマンで働いて、召出しを真剣に考えるようになりました。けれども、いざとなるといろいろな不安が湧いてきます。知り合いのイエズス会の神父さんがほとんどいない、勉強も得意じゃない、語学もできない、仕事で身に付けた経験も生きない、全く別の世界に入ってしまう・・・そんな迷いを霊的指導者の神父さんに打ち明けました。するとこう答えてくれました。「柴田さんの召出しの可能性は低いかもしれない。でも、ゼロじゃない」。皆さんならこの言葉をどう受け取るでしょうか？ 私はその時、不安があったり低い可能性を気にしなくていい。ゼロじゃないんだから可能性をのぼしていけばいい。司祭になれる見通し何て立てなくていい。前に進もうと全力尽くせばいい。そう腹をくくることができました。ちなみに、その神父さんは、私がイエズス会に入会するとは思わなかったそうです。珍しいケースだと・・・。

では、イエズス会に入って不安が消えたのかというと、そんなことはありません。今度は、生活の違和感に直面します。典礼のことも知らない、聖人の名前も知らない・・・食事の会話も合わない（私が得意なのは、全然、修道生活とは関係ない外車と家のことくらいでみんな話を聞くのが退屈そう）・・・1週間たって、これは無理だと思いました。社会復帰するんなら早い方がいい。思いつめて修練長の部屋のドアをノックしました。「いろいろ考えたんですが、自

分には無理だと思うのでやめようと思います」と打ち明けました。すると修練長はこう言われました。「折角仕事をやめて、ご家族から反対されても入会したのに、今やめてしまう必要はないんじゃないですか？ 秋の1ヶ月間の黙想をして、祈り方を身に付けてからでも辞めるのは遅くないんじゃないですか？」。私は、修練長の言葉を受け止めて、もうしばらく続けることにしました。それからだいぶ時間が経って、8年経って、高円寺教会にお世話になり始めました。

「神学の勉強をしてはいるけど、本当に役にたつのかなあ？ 私に召出しはあるのかなあ？」と悶々としていた時に、高円寺の皆さんは暖かく迎えてくれました。確信が持てたとは言えませんが、2010年に叙階されました。

司祭になって最初に派遣されたのは山口でした。山口教会は、主日のミサで100人ちょっとの参加ですが、司祭は3人います。その他にも協力司祭も2人いましたので、神父さんが余っている感じでした。これは、何か仕事を探さないと失業してしまうんじゃないか、と思って関わり始めたのが幼稚園と被災地の活動でした。被災地については6月1日の信者講座でまたお話ししますので、今日は1つのエピソードをご紹介します。山口教会には、イグナチオ教会で長く主任をされてカンガス神父さんがいます。とても人気のある方で全国からたくさん贈り物が届きます。内心、うらやましいなあと思っていましたが、カンガス神父さんは戴き物をどんどん人にプレゼントしていました。私は、被災地の義援金をどう増やすか悩んでいたもので、カンガス神父さんに届いた贈り物を教会で売ってお金にしようと考えました。話しをもちかけたら、初めは怪訝そうな顔をしていましたが、しまい「商売しろ！」と言ってくれました。1枚千円の高級チョコレートは、すぐに売り切れて、被災地ボランティアの旅費に化けました。そのカンガス神父さんは、私が東京に引っ越す直前に別れの言葉を言いに私の部屋のドアを叩いてくれました。「あなたみたいに熱心に、カブトムシ飼ったり、ボランティアに連れて行ったりした人は見たことない。その熱意をいつまでも忘れないで頑張ってください」。話し終わると私を抱きしめてくれました。召出しの道、今日の福音で言えば「イエスの道」を探してきて、カンガス神父さんに抱きしめられて、神様に受け入れられたように感じました。

今日は、わたしの体験を紹介しましたが、皆さんにも「イエスさまが用意して下さった部屋」がそれぞれにあるでしょう。ミサの中で神様からの恵みを出して、心に刻みましよう。そしてまた、今日から「イエスの道」を歩いていきたいと思います。